

大木喬任

おおき たかとう



Ohki Takatou

教育制度の基礎を作り上げた酒豪。
全てを知り、学ぶことのカッコよさ。

- 《人物像》
- 寡黙でクールな啓蒙家
 - 「オレ流」を貫いた我流人
 - 酒と本を愛する書生

全ての国民に「学び」の場を与えん

佐賀藩士大木知喬の長男として佐賀城下赤松町に生まれる。他に兄弟はなく一人っ子。喬任11歳の時に、父知喬が亡くなり、母シカ子の手一つで育てられることになる。喬任は「家の刀が皆俺のものになった」と喜んだというが、それは父親を亡くした少年の強がりだったのだろう。

15の頃から弘道館の内寮生となり、19の時に枝吉神陽により「義祭同盟」が結成されると参加。江藤、大隈、副島らと親交し、志士活動にも参加している。

明治元年、明治新政府に出仕すると、江藤と共に江戸遷都を建白。名前を東京と改め、民間出身としては最初の東京府知事となる。明治4年には初代文部卿となって学制・学校令・教育勅語などの教育体制の整備に尽力。それまで特定の子供しか行けなかった学校を誰でも通えるようにし、全国に5万以上の小学校を置くなど、今日に続く学制の基礎を築いた。

明治6年には参議兼司法卿となり、後の神風連の乱や萩の乱の事後処理に当たった。また、法典編纂の確立にも尽力したことから、明治の六大教育家の一人に数えられている。

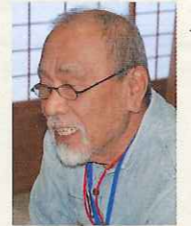
【概略年表】

1832	天保3年	1	3月23日、佐賀藩士大木知喬の長子として佐賀城下赤松町に誕生
1842	天保13年	11	父、知喬が亡くなり、以降、母シカ子の手で育てられる
1846	弘化3年	15	藩校弘道館に学ぶ／「資治通鑑」を精読
1850	嘉永3年	19	枝吉神陽らの主唱で義祭同盟が生まれ、参加する
1860	万延元年	29	藩校弘道館から選ばれて江戸遊学の途に上る
1863	文久3年	32	江藤新平と久留米に潜行し、長州藩士らに会う
1868	明治元年	37	江藤新平と共に東京遷都論を建白、東京府知事となる
1873	明治6年	42	参議に任じ文部卿を兼ねる／司法卿に任ぜられる
1876	明治9年	45	西国出張、萩、神風連、秋月の乱などの裁判処理にあたる
1881	明治14年	50	司法卿に任ぜられる
1884	明治17年	53	多年の功により華族に列し伯爵を授けられる
1889	明治22年	58	枢密院議長に任ぜられる
1891	明治24年	60	宮中顧問官、文部大臣に任ぜられる
1899	明治32年	68	6月26日死去、東京赤坂青山墓地に葬られる

あなたにとって大木喬任とは？

静かなる内に秘めた反骨精神

佐賀城本丸歴史館ボランティアスタッフ
小寺 豊二 さん



大木は悪い言い方をすれば利己的で、我が道を行く性格。しかしその自分を通すためにはその分の努力もした人物です。とにかくその頭脳は副島や大隈も一目置く存在でした。そして目立ちたがり屋でもありました。自分一人引きずるような長袴を履いていたのも彼なりのオシャレだったのかもしれませんが。周りはそんな彼を「呉服屋の番頭」とからかったようです。また規則で木綿以外の服が禁じられている中、一人絹の着物を着たり、自分だけ専用座布団を持参したり。周りにどんな陰口を叩かれようが、自分が良いと思ったものは良い。そんな強い信念が感じられます。佐賀の七賢人の中ではちょっと地味な存在ですが、知れば知る程魅力的な人物なんですよ。

大木喬任を知る入門の一冊

「大木喬任」(佐賀偉人伝06)
佐賀城本丸歴史館が刊行する幕末明治に活躍した人物伝シリーズ。今まで書籍などで語られる事の少なかつた大木の構想や功績に切り込んだ一冊(平成24年2月刊行予定)
重松優 著／佐賀城本丸歴史館 刊
1000円(税込)

NOW PRINTING



▲「東京府京橋之図」月岡芳年画(早稲田大学図書館蔵) 大木が江藤と建白した東京遷都により、京都から東京に移る天皇の行列を描いた錦絵



▲大木が書いた学制発布に関する書簡(早稲田大学図書館蔵)

失敗から学べ 食料危機を救った方法

大木が明治新政府、東京の二代目の知事になった年は1869年。ただでさえ幕府が倒れて日まだ浅く東京は混乱の真っ最中なのに凶作で米価が高騰して人心は不安定だった。彼が素早く米価安定を図り、中国から南京米を輸入し飢饉を救い、浮浪児らの教育所を作ったので都の人心は安定した。しかし荒れ果てた武家屋敷を利用して桑園や茶畑を作った「桑茶規則」は、病害などで目立った効果が出ず、大木も「大失敗だった」と述懐。しかし「失敗を人より早く悟り、過ちを改めてさらに都再建の意欲がわいた」とも言い、しぶとい男・大木らしさがうかがえる。

知識は拳より強し 寝ている暇などなし

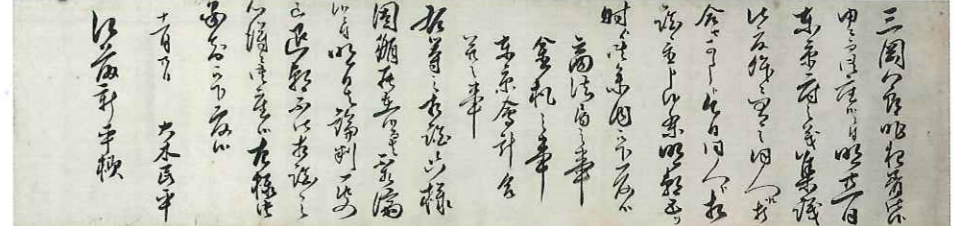
周りの人間が口を揃えて言う程、大木は頭が良かった。それを培ったのが大量の読書量。弘道館の寮生として暮らしている時も、毎晩明け方まで中国の歴史書などを読み続け、その部屋は本で足場の踏み場もなかったらしい。

父親譲りの大酒豪 どんな時でもまず酒だ

大木は父親譲りの相当な酒豪で水のように飲んでた。15歳で藩校弘道館に入った後も隠れて飲んでいたらしい。そんな彼がほろ酔いで東京遷都案を岩倉具視に相談に行った所、「それは木戸孝允に相談しろ」と追い返された。翌朝、岩倉から話を聞いた木戸が大木を訪ねると、今度はやけ酒を飲んでふて寝してたらしい。

学生時代の仲良しトリオ 熱き友情物語

寡黙な性格だった大木がよくつるんでいたのが、中野方蔵と江藤新平。共に弘道館で学び、義祭同盟にも参加した仲間。中野は坂下門外の変に関係したと捕らえられ、28歳で獄死してしまうが、大木はその亡がらを引き取り密かに弔い、墓を建てて冥福を祈った。また、若き江藤が脱藩を決意した時、その資金を工面したり、明治7年、江藤が不穏な動きのある佐賀に帰ろうとした時も彼を心配し引き止め、結果江藤が捕まった時も死刑にならないよう政府内を奔走したり。友情をことのほか大切にした人物だった。



▲大木喬任書簡(佐賀県立博物館蔵) 大木が江藤新平に宛てて書いた手紙。東京府の高法局や礼金のことなどについて、明国会議を行う旨を告げたもの

大木喬任足跡探訪コース【約2時間半】(移動約95分+観光散策約55分)

モデルコース 大木が佐賀で歩んだ友情と勉学の道を訪ね歩く

<p>徒歩で約10分</p> <p>大木公園</p> <p>地図▶P35 H-8</p> <p>大木喬任の生家跡にある公園。大木喬任と息子遠吉の巨大な記念碑が並び、その偉業の大きさを感じられる。</p> <p>☎ 佐賀市水ヶ江3丁目4-12 ☎ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110</p>	<p>徒歩で約15分</p> <p>大隈重信生家</p> <p>地図▶P35 H-8</p> <p>大隈らとは遊び仲間、よく遊びに行き、皆の溜まり場となっていた。GWなどに公開される大隈の勉強部屋は見所。</p> <p>☎ 佐賀市水ヶ江2-11-11 ☎9:00~17:00 休 12/29~1/3 ☎ 大人300円 小学生以下150円 ☎0952-23-2891</p>	<p>徒歩で約10分</p> <p>龍造寺八幡神社(楠神社)</p> <p>地図▶P35 G-7</p> <p>大木らが参加した義祭同盟の楠神社(写真)と記念碑がある。大木はその創立メンバーの一人だった。</p> <p>☎ 佐賀市白山1-3-2 ☎0952-23-6049</p>	<p>徒歩で約20分</p> <p>純粋社塾跡</p> <p>地図▶P35 F-8</p> <p>勤王家石井龍右衛門が興した私塾で、大木の他大隈、副島、江藤、中野らが学んでいた。</p> <p>☎ 佐賀市伊勢町6-25 ☎佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110</p>	<p>車で約40分</p> <p>西住寺</p> <p>地図▶P34 D-3</p> <p>大木家の菩提寺で、代々のお墓がずらりと並んでいる。喬任のお墓はその列中、山門から見て一番奥の左側。</p> <p>☎ 神埼郡吉野ヶ里町大曲1539 ☎0952-52-1105</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

はみだし情報 弘道館の仲間の中で怒られて一番悪いと噂されていたのが大木だった。大隈重信は大木が医師坊主と血だらけの喧嘩をしているを目撃して、すさまじかったと語っている。書簡は読書ばかりしていたがやる時はやるし「静かなる武闘派」だったらしい。